



写真上はアリーナ外壁に設置された新名称のサイン。同下は、左からあいさつする竹屋理事長、高橋社長



テープカットする関係者。左から、KMバイオロジクスの大場久義執行役員、高橋洋匡社長、本学の竹屋元裕理事長、古閑陽一特命副学長



「KMバイオロジクスアリーナ」

ネーミングライツ契約記念式典

地域のため さらなる協力関係願って

本学とKMバイオロジクス株式会社（本社・熊本市、高橋洋匡社長）の間で結ばれたアリーナのネーミングライツ契約を記念する式典が7日（火）、アリーナ玄関前広場に関係者約20人が出席して行われました。本学アリーナの名称は向こう10年間、「KMバイオロジクスアリーナ」となります。

式典では、竹屋元裕理事長（学長）が「アリーナは、授業、実習、部活動に使われるだけでなく、災害時には熊本市の避難所にも指定されています。また、地域にも開放し、連携協定を結ぶさまざまなスポーツチームや障害スポーツ団体にも利用してもらっています。これを機に、さらに多くの方

に利用していただきたいと思います」とあいさつ。高橋社長は「（今回契約は）熊本保健科学大学との協力関係を象徴しており、学生や地域とのつながりをさらに深めたいとの思いも込めています。今後とも大学との協力関係がこの地域にとって意義のあるものとなるように願っています」と述べました。

引き続き、竹屋理事長、高橋社長ら4人がハサミを手にテープカットに臨み、契約の締結を祝いました。ネーミングライツの契約期間は10月1日から2035年9月30日までの10年間です。KMバイオロジクス株式会社が同契約を結ぶのは、熊本大学薬学部の体育館に続き2件目です。（NL編集部）

医療系志望の高校生に出前授業

言語聴覚学専攻

井崎教授、松原准教授

本学教員による「出前授業」が9月17日（水）、24日（水）、26日（金）の3回、熊本市西区の熊本西高校で行われ、医療系や教育系を志望している生徒に向け、言語聴覚学専攻の井崎基博教授と松原慶吾准教授が各専門の立場から授業を行いました。

26日の第3回授業では、11人の生徒を前に松原准教授と本学学生が協力をして、「言語聴覚士が行う検査～筋力・運動機能検査～」と題して、講義を行いました。生徒たちは、嚥下に関連する筋の筋力や運動機能の測定なども体験。本学学生とも打ち解けた様子で、「（検査が）新鮮で楽しかった」「オープンキャンパスに行ったときには体験できなかった検査もあって勉強になった」などと感想を口にしていました。（NL編集部）



本学学生のリードで検査に臨む熊本西高の生徒たち

文化的背景で変わるケアの形実感

看護学科4年 牧本 悠里さん



私は、研修前に「タイの医療制度や看護の在り方、患者との関わり方を学ぶ」という目標を立てて望みました。研修ではICUや分娩室の見学を行い、タイの医療現場では肌の水分計やpH計を用いた褥瘡予防が行われており、高温多湿な環境に応じたスキンケアの工夫がされている点が印象的でした。また、患者の生活空間に机を置き、スタッフや学生が密接に関わることで、変化の早期発見や孤独感の軽減につながる取り組みも観察できました。

経鼻経管栄養を行っている患者に対しては家族教育が行われ、家族が早期からケアに関わる文化があることも印象的でした。日本では在宅移行時に胃瘻が中心となることが多いのに対し、タイでは経鼻経管栄養のまま退院する例も多く、家族の関わり方や文化的背景によってケアの形が変わることを実感しました。さらに、分娩室では赤ちゃんの誕生日や時間を吉日や占いで決める文化があり、帝王切開が選択されることがあると知って驚きました。こうした文化的背景

を理解することは、患者や家族を尊重した支援につながると感じました。

学外での文化体験も大きな学びとなりました。ナイトマーケットでは多彩な屋台料理や果物を楽しみ、現地の人々の暮らしや食の豊かさを感じました。寺院見学では、靴を脱いで敷地内に入る文化や、日本よりも広く荘厳な寺院の規模に驚きました。お花や蠟燭を手にとって床に座り、胸の前で手を合わせて深くお辞儀をする祈り方は、日本での参拝とは全く異なり、新鮮な体験でした。こうした文化体験を通して、宗教や習慣が日常生活に深く根付いており、人々の考え方や生活、医療や家族観にも影響していることを実感しました。

この研修を通して、制度や環境に応じたケアの工夫、家族の早期介入、そして文化や価値観を尊重する姿勢の大切さを学びました。将来、地域で多様な文化を持つ人々と関わる看護職として働く際に、今回の経験を生かしていきたいと思います。



シーナカリン病院で経鼻経管栄養の家族教育を見学する筆者ら交換研修生たち



ワット・フノン・ウエーン寺では手を合わせ祈りを捧げました

ICUや分娩室見学／印象的な食の豊かさ、荘厳な寺院

私の椅子？

私の秘話★
ヒストリー

医学検査学科

原口 実紗 講師

私は子どもの頃から、新体操や水泳、ソフトテニス、ハンドボールなど、さまざまなスポーツに取り組んできました。しかし、社会人になると運動の時間が減り、体を動かす機会がほとんどなくなってしまいました。そこで、運動不足を少しでも解消しようと、思い切って仕事用の椅子をバランスボールに替えてみました。

最初はバランスをとるのが難しく、ボールから転げ落ちてしまうのではとヒヤヒヤしましたが、新体操で培ったバラ

ンス感覚のおかげで、すぐに安定して座れるようになりました。バランスをとりながら座ることで自然と体幹が鍛えられ、姿勢も良くなったのではないかと思います。さらに、腰や肩の疲れも軽減された気がします。

運動不足の解消にどれほど効果があるかはわかりませんが、ちょっとした健康法として期待しています。今後も転倒には十分気をつけながら、無理のない範囲で続けたいと思います。座り心地を試してみたい方は、お声がけください。

杏祭実行委員長 西村 衣純さん(理学療法学専攻2年)

—今年の杏祭の特徴は。

西村：恒例の花火大会をやめ、その分の予算を模擬店、文化・展示での新企画や華やかさ演出のために回しました。例えば、地域の子どもたちも楽しめるようにと、「お化け屋敷」を企画。たくさんの人たちに来ていただくため、上熊本地区の住宅街にビラの投げ込みを行いました。これは初めての試みです。このほか、ステージでは新たにファッションショーや「熊保大生の主張」も考えました。また、会場全体の装飾も華やかにしていますが、これは見てのお楽しみです。

—準備は順調ですか。

西村：3月から準備を進めてきましたが、全体として順調に進んでいます。100人近い実行委員会メンバーを企画、広報、模擬店など6部署に分け、各部署長の下で準備してきました。実行委員の7割は1年次生ですが、部署長を2年次生が務め、頻繁に開催する部署長会議でコミュニケーションをとってきました。学園祭の気分を上げるため、学食のデジタルサイネージを使ってカウントダウン動画も作成しました。「あと2日」の動画には竹屋学長にも出演していただきました。

—今年のキャッチフレーズは「Let's 杏 joy! ~カルテに刻め皆の想い」。

西村：実行委員メンバー全員の意見を取り込んだキャッチフレーズです。「Let's 杏 joy」はポップでかわいい感じがしますが、それだけじゃ軽すぎる。後半部の文言には、楽しい祭りの思い出を心に刻んでほしいとの思いがこもっています。学園祭は、学生が、今楽しめることを学生主体でやれる絶好の機会。皆さん積極的に参加して、楽しんでほしいと思います。

華やかさ増し新企画も「楽しい思い出心に刻んで」



写真上は、「積極的に参加してほしい」と呼び掛ける杏祭実行委員会委員長の西村さん。下は今年の杏祭パンフレット表紙。同じ図柄のポスターが学内に貼ってあります



将来の妊娠念頭に 生活、健康面から提言

助産別科第19期生



スライドを用いて講演する別科生たち

図書館運営委員会主催の「私の部屋でランチを」が2日(木)、キャンパステラスで開催され、助産別科第19期生の3人が「ワクチンと検診で予防~今から考えよう将来の家族の形~」と題して講演しました。

将来の妊娠を考えながら、女性やカップルが自分たちの生活や健康について向き合うプレコンセプションケアや、子宮頸がんワクチン・検診の重要性、妊娠中の風疹感染の恐ろしさなどを説明。会場に集まった人たちは、別科生が準備したスライドを見ながら真剣な表情で話を聞いていました。

講演後の質疑応答では、教職員だけでなく、学生たちからも質問が飛び出し、別科生たちは、わかりやすく丁寧に回答していました。(NL編集部)

週間行事予定（10月14日～10月20日）	
10/15（水）	動物慰霊祭
10/17（金）	インフルエンザ予防接種
10/17（金）・18（土）	杏祭